

活動記録書

開催日： 令和6年11月7日(木) 天候 晴	開催テーマ： 古事記に見る弟橘媛を尋ねて
開催場所：横須賀市	記入者：横山美智男
参加人数：会 員 25 名 ビジター 4 名 計 29 名	
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）： コース：京急線馬堀海岸駅（集合）～馬堀観音堂～浄林寺～うみかぜの路～走水水源地公園～御所ヶ崎（走水低砲台跡）～覚栄寺～大泉寺～走水神社（解散）</p> <p>馬堀海岸駅に集合、住宅街を抜けて馬頭観音堂に向かう。途中、八代目高尾太夫の生地といわれる旧高尾地区の説明板、更に行くくと陸軍重砲兵学校跡の説明板があった。道沿いの階段を上ったら馬頭観音堂（蹄の井）。平安末期、上総の国の暴れ馬が浦賀水道を泳ぎ切り走水に辿り着き、この小原台に住みついた。荒馬が地面を掘ると清水が湧出て、それを飲んだ馬は駿馬になったと言われる。湧き水の場所を蹄の井と呼び、馬が掘ったので地名を馬堀と呼ぶ。</p> <p>車道の右端を一列で歩き浄林寺に到着、昇堂拝観する。浄林寺の創建は永正2年（1505）で浄土宗。本尊は阿弥陀三尊像で江戸時代承応3年（1654）の作。三浦地蔵尊第29番札所、三浦薬師第5番札所で、三浦観音第20番札所でもあり馬頭観音菩薩が本堂に祀られている。</p> <p>旧水道トンネルを抜け海岸に出る。JR横須賀駅から馬堀海岸を経て観音崎までの約10 kmの散歩道は「うみかぜの路」と呼ばれる。平成12年より海側に高潮対策護岸整備が行われた。</p> <p>走水水源地公園は 明治9年、横須賀造船所のためにフランス人技術者ヴェルニーが築造した水源地の一部を公園として開放している。東京湾を一望することができるとともに、春には桜の名所の一つにもなっている。</p> <p>波崎の展望デッキで休憩し御所ヶ崎（走水低砲台）に向かう。御所ヶ崎は日本武尊が東征の折り、海が荒れ滞在した御所に困み「御所ヶ崎」と呼ばれ、背後の山に旗を立てたことから「旗立山」と呼ばれている。後の弟橘媛が「海神の怒りである」として日本武尊の身代わりとなるべく海中に身を躍らせた。それによって海が鎮まり、日本武尊は無事に海を渡ることができた。数日後、海岸に櫛が流れ着き、社を建て櫛を納め橘神社としたが、明治18年に軍用地になったため、橘神社は走水神社に合祀された。</p> <p>ここには明治時代に建設された「走水低砲台」の遺構の多くが現存しており、27cmカノン砲が据え付けられていた砲座跡、弾薬庫などのレンガ積み構造物が公開されている。</p> <p>走水漁港の傍を通り住宅街を抜け覚栄寺入口に着く、境内には入らず通過。この寺は浄土宗で本尊は阿弥陀三尊。</p> <p>次は大泉寺、昇堂拝観する。天正18年（1590）、三浦郡代官の長谷川七左衛門により曹洞宗の寺として開かれた。本尊は延命地蔵菩薩坐像で室町時代初期の作と言われている。また、漁師の村らしく本堂には魚の入った竹の籠（魚籠）を持つ魚籃観世音菩薩が祀られている。</p> <p>本日の最後は走水神社。祭神は日本武尊と弟橘媛の二柱。神社の 創建については享保年間の火災で記録・社宝などが焼失して不詳。日本武尊がこの走水から上総へ渡る時、村人が武尊より賜った「冠」を石櫃に納め、その上に社殿を建てて武尊を祀ったことが神社の始まりと言われている。境内に弟橘媛の記念碑があり、「さねさし さがむのおぬに もゆるひの ほなかにたちてとひしきみはも」と辞世の歌が刻まれている。</p> <p>「古事記」「日本書紀」に伝わる話しに想いを馳せながら走水神社を後にした。</p>	
参加者の状況・意見など 本日は立冬、程々の気温で海辺のコースを気持ちよく歩けた。車の通行量が多いなか横断歩道・信号がない場所もあり、各班に説明ガイドの他サポートが付いていたのは適切だった。	
次回の予定： ・令和6年11月28日(木)7時15分 能見台イトーヨーカドー前バス停付近集合 特別バス探訪「東京下町寺社巡り」 ・令和6年12月5日(木)10時 京急富岡駅 テーマ「富岡の古刹巡りと長昌寺住職のお話し」	